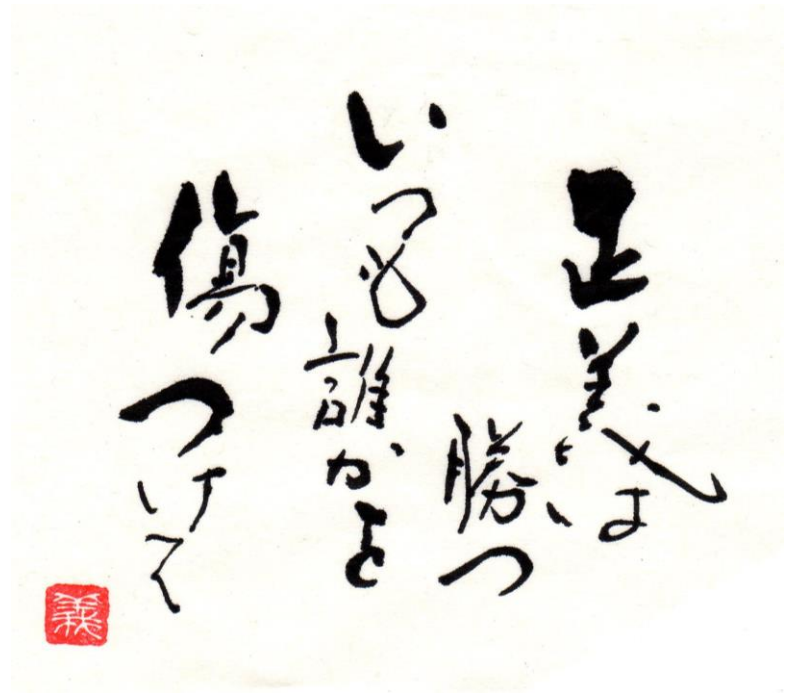


真宗大谷派 存明寺通信

NO.172

2016年（仏歴2547年）5月3日発行



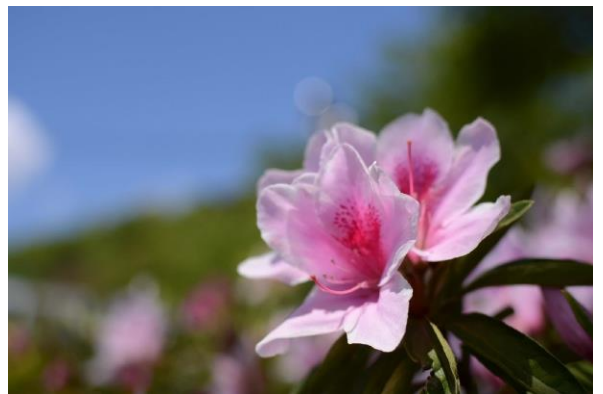
正義は勝つ いつも誰かを傷つけて

渡邊元浄（真宗大谷派僧侶・静岡県）

正義が悪い、というのではない。正義を固く握りしめ、自分こそが正しい、相手は悪だと思いつつ、大きな問題があるというのだ。

国と国との戦争、地域と地域の紛争、人と人との争い。その現場をよくよく見つめてみれば、必ずといっていいほど、その手には正義が強く握られていて、いつも誰かを傷つけている…。しかも、そのことになかなか気がつけない。

そんな私を、大いなる悲しみを持って常に見つめ続ける世界がある。それが浄土真宗。



ぞんみょうじ 存明寺HP、リニューアルしました！ しんらん であ 親鸞と出会うお寺

存明寺のHP <http://www.zonmyoji.jp>

けしの種

―悲しみを生きる力に―



「待つて。この子を助ける薬を探してくる」
家族がひきとめるひまもなく、キサーゴータミーは子どもを抱いてかけだしていきました。

2
町はずれの物知りのばあさんの家にかけてこみました。

「子どもが死にかけています。よい薬を教えてください。お願いします、おばあさん」

はげしく波うつ母親の胸にしっかりと抱かれた子どもを見て、おばあさんはこういいました。

「かわいそうに、この子はもう死んでいるよ。死んだ子が生き返る薬があったらどんなにいいか…。わたしも子どもを亡くしたから

ね・・・」

しかし、キサーゴータミーの耳には、その言葉は聞こえませんでした。

3
少し遠くの評判の高いお医者さんの家へ走りました。

「先生、お願いです。子どもを助けてください」
冷たいわが子を抱きしめる母親に、お医者さん

はいいました。

「お母さん、それだけは誰にもできないのです」

「そんなことをおっしゃらず、お願いですから泣きくずれるキサーゴータミーの肩をやさしくなでて、お医者さんはなぐさめるように、こう

いいました。

「あなたをなのおす薬ならあります。ジェータの林にいらっしゃるお釈迦さまにお会いになりなさい」

「薬がある」という言葉だけが聞こえました。残る力をふりしぼるように、キサーゴータミーはジェータの林に向かいました。

4
お釈迦さまはじっくりと話を聞き続けました。

「わかりました。それではどこかでけしの種をもらつてきなさい。ただし一度もお葬式を出したことのない家からですよ」

お釈迦さまの言葉に、青ざめていたキサーゴータミーのほほは、少し赤みをとりました。

「坊や、もうすぐお薬をあげますからね」
キサーゴータミーは息子にほほずりすると、ふたたび町へ駆け出していきました。

5
大きな集落が見えてくると、キサーゴータミーの足はひとりでに速くなりました。

「すみませんが、この子の薬にけしの種を少しだけませんか」

農家の主婦はころよい返事をして、すぐ奥からけしの種を持つてきました。

「ところでおたくはお葬式を出したことがありますか」

キサーゴータミーの話を聞きながら主婦はこう答えました。

1
インドのサーバッティという町にキサーゴータミーという名前の若い母親がいました。

幼いひとり息子が急病であつけなく息を引きとつてしまいました。家族がお葬式の用意をはじめると、キサーゴータミーは息子を抱いてこういいました。

「私も去年わが子を亡くしました。悲しみを乗り越えようとしたのですが、悲しみが消えないんです」

主婦は、今の自分の思いを自分の言葉にして語ってくれました。その言葉を聞きながら、キサーゴータミーは、自分と同じような思いの人がここにいるということを感じたのでした。

6

やがて時は流れて数年がたちました。お釈迦さまの教団の中にキサーゴータミーのすがたがありました。そこには、人々とふれあいながら、生きることを懸命に学ぼうとしているキサーゴータミーがいました。

キサーゴータミーの身にいったい何が起こったのでしょうか。

それは出会いということだったのです。キサーゴータミーは、いろいろな人と出会い、いろいろな言葉と出会ったのです。

出会いは、時にその人の人生を大きくゆり動かすものようです。

7

その後、キサーゴータミーが出会った人たちは、言葉をとっても大切にしていた人たちでした。

大切な夫を急に亡くした女性との出会いがありました。女性はこういいます。

「お釈迦さまの「これからがこれまでを決める」という言葉は私にとって救いの言葉です。これからの生き方により、人生を変えること

ができる。私、生きていきます」
そういつて女性はやさしくほほえみました。また、妻を亡くした男性は、こんな言葉を語ってくれました。

「一切皆苦という言葉聞いて、今までは苦しみや悲しみから逃げていきたいと思っていけれど、これからはそれらの意味を尋ねていこうと思う。そうでなければ、つらいだけの人生になつてしまうから。」

力強くそう語る男性の言葉には、強い力がありました。

他にも様々な言葉との出会いがありました。たとえば、

「悲しみは人と人をつなぐ糸である」

「悲しみの深さは贈り物の大きさ」

「あなたの苦しみは、いつか誰かの慈しみとなる」

「苦をまぬがれるには、その苦しみを生かしていく道を学ぶこと」

「ただ死んだのではない。その人は大切ないのちを生きた人」

言葉が生きているかのようにです。キサーゴータミーもまた、ぬくもりのあるあたたかな言葉を大切に生きていこうと思ったのでした。

8

こうしてキサーゴータミーはお釈迦様のお弟子になったのでした。悲しみは消えない。でもこの悲しみは消さなくてもよかったのです。

「坊や、ごめんなさい。あなたのお薬は見つか

らなかつた。でもかわりに、お釈迦様からとても大事なことを教えてもらった。それは、この悲しみを無駄にはしない生き方をするということ」

キサーゴータミーの中に悲しみは消えてはいませんでした。その悲しみがやがて生きる力となり、キサーゴータミーは与えられた自らの人生を自ら歩む人となつていったのでした。

酒井義一（釋諦信）

※仏典童話『けしの種』の後半部分に、アレンジを加えたものです。従来の後半には、仏教の教えとの出会いが欠落していると感じていたからです。ちなみに後半に引用した言葉は、存明寺グリーンフケアのつどいの「ひとことコメント」からの引用で構成しています。文責…住職。



5月14日(土) 2時 樹心の会

お話：岸木勉さん・酒井住職

6月11日(土) 2時 樹心の会

お話：酒井浩美坊守・酒井住職

6月25日(土) 2時 グリーフケアのつどい

7月9日(土) 11時 新盆にいぼん合同法要

7月13日(水) 11時13分 おぼん法要

7月23日(土) 2時 グリーフケア特別企画

8月27日(土) 2時 青年のつどい

内容：お話・コンサート・バーベキュー

9月10日(土) 2時 樹心の会

お話：藤井俊五さん・酒井住職

9月22日(木) 11時13分 秋のお彼岸法要

9月24日(土) 2時 グリーフケアのつどい

10月1日(土) 1時 日帰り川越への旅

10月8日(土) 2時 樹心の会

お話：藤井俊五さん・酒井住職

10月29日(土) 10時 おみがき

11月2日(水) 2時 報恩講ほうおんこうの夕べ

3日(木) 12時 報恩講法要

講師：調和晃麿先生(福岡県)

11月26日(土) 2時 樹心の会

お話：藤井俊五さん・酒井住職

12月10日(土) 2時 樹心の会

お話：藤井俊五さん・酒井住職

12月17日(土) 2時 グリーフケアのつどい

◎ぞんみょうじ(ご)ども会 月一回

◎ぞんみょうじ(ご)ども食堂 月一回

◎子育てサロンいちごのへや 月一回

2016年 特別企画第1弾！

子どものグリーフケアを考える

—DS上映&大島花子さんミニライブ—

日時 2016年7月23日(土)

午後2時〜4時

会場 存明寺

会費 一、〇〇〇円

共催 グリーフサポートせたがや

真宗大谷派 存明寺

グリーフケアの動き、特別企画です。

大島さんは、あの坂本九さんの娘さん。

グリーフサポートせたがやとの共催です。

2016年 特別企画第2弾！

日帰り川越への旅

—小江戸・川越散策と—

いも懐石を楽しむ会—

日時 2016年10月1日(土)

午後1時「本川越駅」集合

内容 川越散策と法善寺参拝

川越「いも膳」での夕食会

会費 6000円

募集 30名

法善寺さままでは、ご住職の法話を聞きます。

ただ今、申し込み受付中です。

【あしがき】

▼熊本で大きな災害が起きました。災害から、自分の動きが問われています。人はいつても、時代社会の出来事から願われ続けているようです。▼どんなことが来ても、事実を引き受けて生きてゆける、そんな勇気がほしいものです。(住職・釋諦信)

東京都世田谷区北鳥山4-15-1

真宗大谷派 存明寺

住職 酒井義一

〒157-0061 TEL 03-3300-5057

FAX 03-3300-5880

E-mail : sakai@zomyoji.jp

